
魔法戦記リリカルなのは the LAST BATTLE

エクセル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法戦記リリカルなのは the LAST BATTLE

【Nコード】

N5010Z

【作者名】

エクセル

【あらすじ】

六課が別世界に行っている間、ミッドは大きく変わった
独裁、略奪、統括
2年・・・これだけの期間でこれだけ変わった
だが、彼らが帰ってきた

大きな絆と共に

ひとり語り

地獄の炎が揺れ動く

ただ、罪人を燃やす炎

これは罪を洗い流してくれるのだろうか

わからない

この体に眠る一つの魂

それは二つの顔を持つ

一つ、優しき強い顔

二つ、残酷で非情な顔

だが本人たちわからない

まだ、目覚めてはいないから

近々、仲間の中で血が流れるだろう

裏切りという名のもとに・・・

人よ、疑うことをしるのだ

さもなくば、負けるだけ

お前たちの惨敗だ

さあ今、扉が開く

魔法戦記リリカルなのは the LAST BATTLE
始まります

プロローグ（前書き）

ーミッドチルダ 拘置所ー

「ほらさっさと歩け！！」

監守がゆっくり歩いてきた男を蹴り飛ばした。

????「イラつく野郎だぜ……」

蹴り飛ばされた男は愚痴を言いながら、新しい牢獄に入る。彼の名前はヴァイス・グランツ

元陸戦魔導士にしてヘリパイロット、特務六課所属だった

ヴァイス「けっ、ヒゲ剃っただけでこの扱いかよ」

ヴァイスはベットに寝転がる。

????「本当にひどい扱いだ。」

ヴァイス「なんだ……お前さんもここだったのかい」

????「姉妹の中で、リーダーたる私は2年前からここにいます」

向かい側の牢獄には眼帯をした銀髪の少女は窓から空を見上げた。綺麗とは言わない夜空

彼女の名前はチンク・ナカジマ

ナカジマ姉妹の中で次女

他の牢獄にも何人が入っていて、全員疲れ切った顔だった

チンク「父上と姉上、他の姉妹たちは無事だろうか」

ヴァイス「ノーヴェとウエンデイは第2拘置所らしいぜ。ナカジマのおやじさんとギンガはわからんが」

チンク「そうか……エクセルたちはどうしているだろうか」

ヴァイス「この2年間…なにもないんじゃ捕まったと考えていいかと思うが、シグナム姉さんなら捕まりやしないだろうが」

プロローグ

2年前、ミッドチルダにてエンペラー派によるクーデターにより秩序は崩壊し平和は終わった

ミッドチルダ地上部隊と空戦部隊はエンペラー派により洗脳され、時空管理局はミッドチルダから完全撤退した

戦争となった世界

管理世界の一部がエンペラー側に加わり、エンペラーは勢力を拡大させていきミッドチルダを支配

独裁制を敷き、1つの国を築き上げたのだ

司令を失った特務六課と聖王教会、その六課隊員と騎士団は次々に捕まり、全員捕虜となってしまった

市街地放送『明日夜、中央公園にて聖王教会リーダーを公開処刑を執行すると政府から発表がありました』

市街地のスクリーンにニュースが流れた。市街地は弱肉強食ともいえる日常

飢え死にする人は最近、その数を増していた

????「公開処刑…みんなに報告しましょう」

????「そうだな、作戦決行とほぼ同時にこちらも動こう」

スクリーンを見ていた二人の男女は裏路地へ入っていった

―地下街―

????「それぞれの位置は確認した。ライオットとアグレッサーに
伝言を頼む…処刑場にはエンジェルが行く、と」

背を向けあつた男女は何かを話し、直ぐ離れていった。

―翌日―

夜、公開処刑場には色々な人たちが集まっていた
メディア関係、政府関連

市民たちが野次馬として集まっていた

処刑人となる人物、聖王教会リーダー騎士カリムは小さな処刑台に
登った

剣による斬殺という古く酷く惨い処刑方法だ

政府要人「騎士カリム、この2年よく耐えたものだ。頼みの騎士の
女もない騎士団もない…お前にはもう何も残ってはいない」

カリム「まだ…残っています」

野次馬の中をフードとマントで全体を隠した人物が歩きはじめる

カリム「いずれ…あなた達は思い知るでしょう……私たちにはまだ
希望があります」

カリムは横目で相手を睨んだ。

政府要人「ああ〜キミの知り合いの八神はやてのことかな？残念だが、彼女の率いる主力のほとんどが消え失せ、残る部隊の奴らも全員捕まった。どんな奇跡が起きても、現れはしないのだよ…時間だ！執行せよ！！」

要人が離れていき、刀を持った男がカリムの左隣に立つ

手錠が付いた手を胸の前へ上げ、祈るように目を閉じた。男は刀を構え、カリムに狙いをつける

カリム「………？」

カリムは不思議な感覚を感じた。覚悟を決めたのに一向に斬られない目を開けると、刀を持った男が刀を上げたまま静止していたのだ。

ドサツ…

そして男はそのまま横へ倒した。周りが騒めき始めた

???「残虐な者、それは古くから消えることない」

いつの間にか自分の隣にフードとマントで全体を隠した人が立っていた

カリム「あつ、あなたは…？」

死刑台に魔導士たちが6人ほど集まってきた

政府要人「何者だ貴様!!」

死刑台に先ほどの要人が上がってきた。

???「……2年、2年でここはこんなにも荒れ果てたんだな」

政府要人「なに……」

???「俺達がない間…仲間はこんな扱いにされていたとは」

カリムはフードの中を覗いた。

カリム「!?あなたはッ…!!」

政府要人「取り押さえる!!」

1人の陸戦魔導士が槍を持って斬り掛かってくる

それを軽々と片手で弾き、魔導士を蹴り飛ばす。そいつはフードとマントを横に投げた

政府要人「きつ、貴様は!?!」

???「そう…2年前、お前たちが存在を消した部隊…時空管理局特務六課、エクセル・アーシユライト…俺達は帰って来た!!」

エクセルは剣を抜き魔導士たちと戦闘を始めた。魔導士の1人が慌てて要人に走ってくる

魔導士「報告します!!各地の拘置所が何者かによって襲撃を受けています!!」

政府要人「なに！？…ま、まさかー！ー」

魔導士「全て、六課と教会騎士団を拘留している場所です！ー」

要人はエクセルを見た。

複数の魔導士たちと軽々とわたりあい、こちらを見てニヤリと笑った

ー第1拘置所ー

ソラ「こちらソラ！第2区画の敵制圧完了、次に向かいます！ー」

2つの銃剣ニルヴァーナを持ったソラは通信を終えて、次の場所に向かう

ドゥーエ「まったく…終わったら次に行くのは構わないけど、ついでく人の身にもなりなさいよ」

右手に装備した爪で牢屋の壊したドゥーエは入れられていた仲間達を救出する

ドゥーエ「さあ、脱出よ！ー」

―第2拘置所―

エリオ「スピーアングリフ!!」

「ぎゃああああ!!」

ドサツ!

監守をストラーダで斬り飛ばしたエリオは牢屋に入っていた仲間を救出する

ノーヴェ「エリオ!?お、お前、無事だったんだな!!」

エリオ「当然です!!」

エリオはノーヴェにデバイスを渡す

ノーヴェ「結局前のデバイスになっちまったがまた力を借りるぜ相棒!ジエットエツジ!!」

ノーヴェはバリアジャケットを装着する。

ノーヴェ「ウエンディのバカを出さなきゃな!!」

エリオ「心配無用です。キャロがさっき助けたそうですから」

他の仲間も牢屋から救出するエリオ。

ノーヴェ「オーケー！なら、憂さ晴らした。向かってくる敵を片っ端からぶっ潰す！！」

―第6拘置所―

シグナム「監守がこの程度か…抜くまでもない」

ヴァイス「シグナム姉さん！？」

アギト「今出してやるよ！！」

アギトは牢屋を次々と開けていく。中から続々と仲間達が出てくる

シグナム「お前たちの武器だ。私1人では他の場所までは手が回らん…手伝え」

ヴァイスとチンクにそれぞれの武器を渡す

チンク「すまない…エクスカリバーは折れてしまった」

シグナム「気にするな。」

ヴァイス「うし、ストームレイダーはまだ生きてるな。チンク、お前さんは他の場所を頼んだぜ！！」

チンク「了解した。5分で終わらせよう」

―第4拘置所―

スバル「ジェットリボルバー!!」

いくつもの壁を一撃で打ち抜いたスバル。その区画にいた仲間達は目を疑う

ギンガ「スバル!?まさか、本当に!?!」

スバル「ギン姉、助けに来たよ!!」

ゲンヤ「このバカ娘が!今までどこにいやがった!!」

そこにティアナが駆けつけ、鍵を開ける

ティアナ「話は後です!まずは脱出です!!!」

仲間達を乗せたヘリが次々と飛び立っていく

「逃がすか…脱獄するなら死んでもらうぜ」

監守長がライフル型のデバイスを構え、ヘリに狙いをつける。トリ

ガーを引こうとした瞬間、雷鳴が走りへりの横に金髪の女性が現れ物凄い速さで飛んできた

「なっ！…どっ、どこから！…？」

バルディッシュ《ジェットザンバー》

持っていた金色の刃が伸び、監守長の足元をえぐり吹き飛ばした

フェイト「こちらライオット1、救出と脱出に成功…帰還します！」

エクセル「了解！…それじゃ…退散させてもらおう！…！」

政府要人「逃がすと思うか！…！」

カリムを抱えるエクセル。

すると周りの装置が動き始める。

政府要人「この強力なAMF空間の中で飛ぶこともできまい！…！」

エクセル「………カリム、しっかり捕まって」

カリム「え？…はっ、はい」

陸戦魔導士の部隊が続々と集まってくる。

エクセル「操られてるとはいえ、数が増えると厄介だが…今の俺にはAMFなんて無意味だ」

すると、エクセルの体が宙を飛んだ。

政府要人「なっ、なんだあれは!？」

抱えられているカリムはエクセルの背中にあるものを見る

カリム「はっ、羽根…!？」

いや…翼だ。

人にはない白銀の翼を広げ、エクセルは空へ舞い上がった。

舞い上がっていく相手を見て要人は隣にいた魔導士の胸ぐらを掴んだ

政府要人「なんとしても奴らを捕まえる!!こんなことが上に知られては私1人の責任だけではすまん!!貴様等も同罪だ!!!!」

カリム「あの…その…エクセルさん。」

エクセル「ん…？」

カリム「その翼…一体あなたは」

エクセル「俺は天使…翼があつて当然です」

カリム「てっ、天使…？」

するとエクセルは高度を上げて、雲を抜ける

エクセル「細かいことはまた後で…追っ手が来た」

スピードを上げる。その後ろから空戦魔導士の2編隊が飛んでくる

エクセル「はやて！敵の追っ手が迫ってる。アグレッサー1に援護射撃を要請！！」

横に通信画面が表示され、部隊長のはやてが映しだされた

はやて 了解や！そちらの位置は把握済み、あと30秒で船が視認範囲に入るはずや！！

カリム「はやて…良かった」

はやてを見て胸を撫で下ろすカリム

はやて カリム、再開を喜ぶのは後や。

エクセル「ヴォルフラム確認！ちよっと手荒になりますけど、我慢してください！！」

カリム「え…」

エクセルはソニックムーブを使用し、船へ急接近する

エクセル「受け取れ!!」

エクセルはカリムを飛びながら船へ放る。カリムは小さな悲鳴を上げて、甲板へ下りていく

甲板上にはバリアジャケットを装着したはやてが立っていた。どうやらエクセルは、はやてに向けて放ったらしい

はやて「よっ…と!!」

カリムを上手く受けとめたはやて。

カリム「はやて!?!」

はやて「アグレッサー1、援護射撃開始や!!」

そして少し離れた甲板には、なのはが立っていた。左腕には最新型の装備を装着していた

なのは「了解!アグレッサー1、ストライクカノン スタンバイ!!」

ストライクカノン。対AMF戦用特殊装備であり砲身、または近接戦闘にも使用できる

撃ちだすのは魔力エネルギー弾で、出力兵器扱いにもされる。だが、

今の状態のミッドチルダでは魔法を使うのは不利になりつつある
その為にプレシアが作り上げた武器である

エクセル「今のこの世界では存在しない物を作り上げる。対抗する
にはそれしかない」

エクセルは方向転換し、空戦魔導士隊に突っ込んだ。

なのは「ストライクカノン、撃ちます!!」

なのははトリガーを引いた。

ドオン！ドオン！

エネルギー弾は拡散し、エクセルを援護する。

エクセル「傷つかないように峰打ちにしてやるよ!!」

エクセルは自分のデバイスのブランド・ティータを抜き、逆刃で魔
導士と交戦する

「?????」

「?????」奴らの動きを良く記録しておけ」

バイザーを付け、灰色のスーツを身につけた翠色の短髪の青年はオペレーターに指示する

オペレーター「了解」

「???」にしても面白い。どうやらいなくなった時間帯で力をつけてきたとは」

青年は画面に映っているエクセルを見て、舌で唇を舐める。

「???」美味そうな男だ。フッフッフッ…」

エクセル「全滅確認、帰還する」

ヴォルフラムは上昇していき、エクセルは甲板に降り急いで中へ入る。ブリッジでは、はやてが指示を出していた

はやて「衛星軌道に入ったら、時空間に突入や!!」

そして、捕まえた捕虜たちを全て奪還され
あまつさえ、空戦魔導士隊の2つを落された責任を処刑場にいた要
人が全体責任となった

政府要人「お待ち下さい閣下!!!どうかお許しを——」

???「断罪」

男が言うと突然、要人の首が飛んだ。

ドサッ

胴体は床に倒れ、血が溢れだした。

???「片付けておけ」

???「はっ……」

黄緑の髪を生やした青年は胴体と首を引きづり、部屋を出ていった

???「奴らが帰って来たか…フフッ!よかろう。このエンペラ
…逃げも隠れもしない。開戦だ!!!」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5010z/>

魔法戦記リリカルなのは the LAST BATTLE

2011年12月17日00時53分発行